

阿部はるまさ

流山市議会事務局 〒 270-0192 流山市平和台 1-1-1 04-7150-6099

市政報告
2020 年春号
流山市議会
社民党

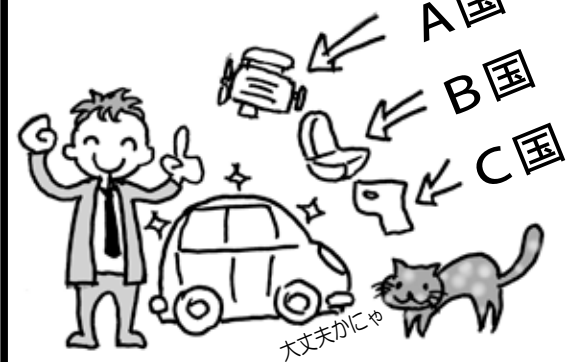
第1回
定例会
の報告

市政は市民の命と健康を守る砦たるべき 流山市は新型コロナ対策に真剣な取り組みを

一般質問しました

日本がコロナ感染症を恐れなければならない理由

その1 サプライチェーン（供給網）の地球大への拡張

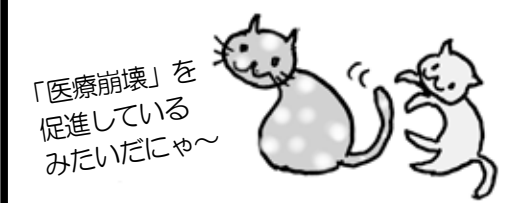


その2 インバウンド(外国人観光客)の大膨張



その3 医療リストラの推進

- 保健所 850 (1990年) ⇒ 470 (2020年)
- 感染症病床 10,000 (1996年) ⇒ 2,000 (2020年)
- 結核病床 3,2000 (1996年) ⇒ 5,000 (2020年)
- 新型インフルの犠牲者 448人 (2009年) ⇒ 3,500人 (2018年)
- 公立病院 424 病院が名指して統廃合や病床削減



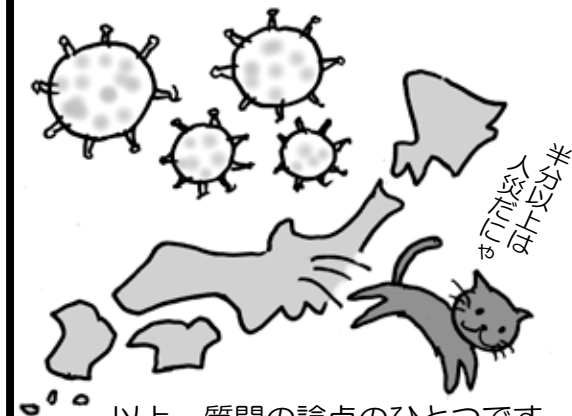
阿部治正はこの6年6ヶ月、平日はほぼ毎朝（出張などで市内にいない日を除き）駅頭に立ち市政の報告をしています。

その4 経済の長期停滞

モノを作っても売れません



以上の4つにコロナ感染症の流行が追い打ち



以上、質問の論点のひとつです

社会のあり方の見直し迫る「コロナ禍

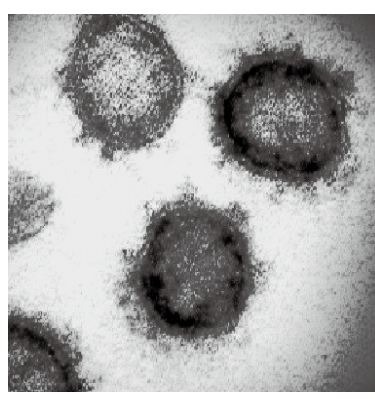
働く人々と生活困窮者に万全の所得補償を 中小零細事業者支援の拡充を

■「コロナ恐慌」の勃発

資本主義の地獄の釜が口を開けました。「コロナ恐慌」です。コロナはきっかけに過ぎず、背景にあるのは、とうの前から指摘されている資本主義の行き詰まり。つまり企業の本性はより大なる利潤の追求であるはずなのに、新投資をしても企業として成り立つだけの利潤を上げられなくなっていた過剰資本の現実です。

■自宅待機、解雇、内定取り消し

労働者は、テレワークとハイカラな呼び方をされる事実上の自宅待機、在宅勤務という自宅籠もりを強いられています。休業や倒産によって雇い止め、解雇に追い込まれる労働者が大量に生じています。若者たちは内定取り消しで社会人スタート時点で挫折の憂き目。無業、失業状態にあつた人々は、すでに食べるもの



■経済の長期停滞に消費税増税とコロナがとどめ

昨年秋の消費税増税で日本

■大型経済対策は誰のため

財界つまり大企業の総元締めとその利益代表である日本政府は、大型の経済対策を打つ姿勢は見せています。中小零細事業者や低所得者に対する対策も一応は含まれていますが、しかし彼らがそれを行うのは、庶民の暮らしを救うことと自体が目的ではなく、自分たちの利益になるこの社会体制が、社会矛盾の噴出で崩壊したり、歴史から退場を迫られたりするのを何としても避けるため。



や住むところにも困る状況に突き落とされつつあります。

■大企業は大リストラを企んでいる

大企業間の相互の犠牲転嫁、生き残りの争いに加えて、今後確実に進められるのは、財界大企業にとって長年の懸案であった、いわゆる低生産性部門の整理淘汰。多くが中小零細事業者によって担われているサービス業、そして大企業の中にも存在するサービス部門がそのターゲットです。福祉・医療、教育、小売り、飲食サービスなど、多くの雇

用を支えている業種。そして大企業の内部のサービス部門が、コロナを口実にして、生産性の向上をうたい文句にリストラに晒されることになりました。財界大企業がそうするのは、それが彼ら自身の低コスト経営に貢献し、地球規模の大企業の競争戦に有利になるからです。

■働く者や生活困窮者を支える経済対策を

私たちは、財界や政府の経済対策に幻想は持たず、その大きさや内容や方向が、労働者庶民・中小零細事業者などの利益に叶ったものとなるようしっかりと練り上げた要求を掲げて、議会の内外で活動していきます。

2020年3月29日 記



これでは市民は救われない！ コロナ対策に大胆なシフトを

2020年度
予算に反対

阿部治正は、第1回定例会市議会（2月20日～3月22日）の最終日に2020年度の予算への反対討論を行いました。大きな政策課題に即して討論の要旨をご紹介します。

●露骨な都心目線の「都心から一番近いもりのまち」

この予算案は、私が昨12月議会で反対した「都心から一番近い森のまち」を謳う「流山市総合計画」に基づく最初の予算です。流山を主体にして「都心に一番近い」と言うならまだしも、東京を主体にしての「都心から一番近い」を押し出すまちづくり計画です。TX沿線開発依存の、新住民誘致と人口増を基本に据えるという宣言です。また国が進めるバブル政策に乗っかうという政策です。流山市自身の魅力や地力に注目し、それを深掘りし、育てていこうという、内発的な発展の観点はありません。



●消費税増税による地域経済の失速に対策なし

第1は、消費税増税によるGDPの年率換算6.1%もの経済失速が、流山の地域経済にも大きな影を落としているのに、その対策はなし。消費増税による住民の負担増にも極めて鈍感。昨10月から始まった、増税分を住民の利用料や使用料に上乗せする施策が、まさに住民の痛みとして痛感され始めたこの時点でも、修正されていません。第2は、人口誘致政策の負の側面として生じる子育て施設や学校不足、子どもと保護者への犠牲のしわ寄せ、その解消策は後手に回って、不十分。「都心から一番近い森のまち」をスローガンにしていますますますアクセルを吹かしながら、子育て施設や学校不足を解消すると言っても自ずと限界があり、新たな矛盾が噴き出すことは避けられません。

第3に高齢者施策について。高齢者への医療と介護の提供は、国から自治体へ、施設・病院から地域・在宅へという流れが強まっています。地域包括ケアシステムと言われますが、狙いは国の予算をかけないですむサービスへという大きな方向転換。流山市は、この国策を「介護保険制度の持続可能性のために」といって弁護してきました。しかし本当に求められているのは、介護を必要としている高齢者とそのご家族の中に、実際にどういう切実なニーズがあるのかということを見据えながら、介護の仕組みづくりを進めることです。

●外国人観光客誘致よりも子育て・介護施策の充実を

第4に商工業政策では、相変わらず、非現実的なインバウンドへの熱中と高所得者優遇の「ふるさと納税」政策への追随。これは、予算額の多い少ないの問題ではなく、市の政治姿勢として、大きな問題を胎んでいます。

本町・利根運河のツーリズム推進は、流山の魅力に着目し、交流人口の増大などまちを活性化していく上で、有意義な施策。問題は、そこに海外からのインバウンド呼び込みや経済効果を期待している点。これはいくら何でも、過大な幻想であり、流山市が他の切実な課題を差し置いて取り組む事業ではありません。

コロナ感染症問題が収束したらインバウンドを呼び込めるはず、そのための準備を進めていくという当局の発言もありました。しかしコロナウイルス問題が教えているのは、ツーリズムやインバウンドも、その目的や意義が根本的に問い直されている



人口増や外国人観光客誘致にうつつを抜かしている場合が

ということ。ツーリズムは、日常空間とは別の世界を体験することで、人々に新たな発見や感動をもたらす、人生の見方などを変えてくれる効用を持ちます。だからこそ、流山の市民や行政がなすべきことは、そのお手伝いを誠心誠意に行うこと。インバウンドのおこぼれをムリヤリに流山市に引っ張り込むという、出来もしないことにおカネをつぎ込むことではありません。流山市が持つ観光資源にそこまでの課題を課すことは行き過ぎだということは、現実を冷静に見れば明らかです。



●コロナ感染症問題の深刻さにまったく無自覚

もうひとつ、特に指摘をしなければならないのは、新型コロナウイルスの問題。

私は国内感染者がまだ33名だった2月14日の段階で、一般質問の通告をしました。当局はまったく重視はしていなかったようですが、私は質問において、この問題が極めて深刻とならざるを得ないとを、幾つかの理由をあげて述べました。

理由の第1は、日本社会と医療は、歴代の政権の医療リストラ策によって、感染症に対して極めて脆弱な状態にされてしまっている。第2は大企業の利潤最大化のためのサプライチェーンの拡大が世界大に広がり、どこかの一国での異変が直ちに他に国々に、伝播してしまう経済構造になってしまっている。第3に、日本の経済は、政府のやみくもなインバウンド客の量的拡大策に大きく依存するようになってしまっていること。

私は何年か前の予算案への討論でも、流山におけるインバウンドやホテル開業への過度な期待は、近年高まっている地政学リスクを考えれば当てが外れると述べておきました。企業の利潤ばかりを考えた、サプライチェーンの拡大とインバウンドへの熱中は、これまでの人類とウイルスとの攻防を交えた共生関係を、それが損なわれた時への対策をまったく考えないままに、外から乱暴に破壊してしまいました。それが今回の世界大の、深刻なパンデミックの背景の1つです。

さらに言えば、私がこの数年間の予算と決算の討論の度に主張してきたことですが、日本が陥っている経済社会の構造の大きな歪み。もう十数年も続いている大企業の利潤率の趨勢的低下と経済の長期停滞。この問題を小手先細工で取り繕おうとする「金融緩和」や「財政バラマキ」。それらは結局は、見かけの上での底の浅い景気の維持やミニバブルを生じさせるだけで、経済と社会を本当の意味で活性化させるものではありません。

こういう国や地域の経済社会構造は、ひとたび何かをきっかけにつまづけば、急速に元々の脆弱な素の姿を露呈せざるを得ません。既にそのことは、昨年末に消費税の増税によって明るみになりかけてきており、今回のコロナウイルスで、決定的となってしまいました。経済の急速な落ち込みはすでに「恐慌」と言っても良い状況ですが、コロナウイルスはそれを顕在化させた単なるきっかけ。本当の原因は、経済の長期停滞、人為的な金融緩和、財政膨張だけでこれを支えようとする経済政策などにあります。

●市民生活に密着した市職員の頑張りには敬意

以上この予算案の問題点の指摘と要望をしました。そうは言っても、市政は市民の暮らしを預からざるを得ないので、市民の声に強いられて、市民の必要に応える施策も予定されています。そのことには、日々市民と接触しながら市行政の現場を預かる職員の皆さんや各部局の頑張りが反映されており、その点は率直に評価します。

国民の声に強いられて、国が打ち出している様々な政策、国費や県費が期待できる施策の実施も、流山市は当然に予定しています。

しかしながら、市民の声や市職員の努力によって行われようとしている必要な施策も、井崎市長のカラーにべったりと染められてしまっているとまでは言いませんが、網かけを施されて残念ながらもくすんだ色になってしまっています。

以上の理由で予算に反対します。

●賛成21名・反対6名

